

プログラム開発から実践まで、環境教育指導者研修
実施報告 3

楽しいプログラム体験

2007年3月15日(木) 10:00~11:30

いよいよ、完成したプログラムの体験実施です。富山県環境科学センターで作られた体験プログラムをセンターのスタッフが実施し、一般から募集した参加者に体験していただくことになりました。

プログラムタイトル：自動車の影響を調べてみよう。

参加者：12人

実施場所：富山県環境科学センター



《実施のあらまし》

- ・参加者は大気環境ネットワーク中央室で、きょうの予定を聞く。

<環境科学センターの業務の説明>

- ・環境科学センターが取り組む調査研究などについて、パワーポイントで分かりやすく説明。たとえば大気汚染の観測装置が県内各所に広く設置され、常時データが送られていること、その測定網とホームページへのリアルタイムでの情報提供に、一同感心した。



<自動車の排ガス実験について説明>

- ・富山県の酸性雨や気温の推移について説明を聞く。
- ・富山県に降る雨や雪の pH は？ 酸性雨について（pH：年平均 4.5 ~ 5.0 程度で推移、酸性化している。）
- ・富山県の年平均気温は？ 温暖化について（右肩上がりの傾向で温暖化が伺われる。）
- ・ディーゼル車、ガソリン車による排ガスの違いについてなど。



<体験：自動車の排ガスの影響を調べよう>

1. 車の排ガスを水に溶かして pH を測ろう。

蒸留水を入れたポリ袋を車のマフラーに当て、排ガスを3分間蒸留水に触れさせて、パックテストで水の pH を測ると、ディーゼル車の排ガスに接した水はガソリン車より pH 値が低い(酸性度が高い)ことが分かった。

2. 車の排ガスに含まれる成分を検知管で測ろう。

車のマフラーから出る排ガスに検知管を近づけてガスを吸入する。しばらくすると検知管の試薬が排ガスと反応して変色するので、変